○宮城県内のユビソヤナギ（竹原明秀・内藤俊彦） Akihide TAKEHARA & Toshihiko NAITO: *Salix Hukaoana* Kimura, newly found in Miyagi Pref. in northeast Honshu

ユビソヤナギは，1972年に群馬県谷川岳山系の湯檜曾川流域で深尾重光氏により発見され，1973年(本誌 **48**: 321-326)に木村有香博士によって新種として発表された落葉高木である。その後，他地域からの自生の報告はなかった。ところが筆者らは，最近，宮城県内で新たに2ヶ所のユビソヤナギの生育地を発見した。1つは鳴瀬川流域の小野田町漆沢ダムの上流であり，他は荒雄川上流の軍沢川分岐点附近の地域である。

著者の1人内藤は，1983年5月9日に大橋広好教授が4年次学生若杉徹君に鳴瀬川上流地域のフロラを調べさせる目的で漆沢ダム上流へ調査に行く際に同行した。一行は川原でオオバヤナギやドロノキを見出し，これらが宮城県内でも比較的まれな植物でありながら，この川原では特に広い範囲にわたって生育していることに注目した。また，後にユビソヤナギと確認したヤナギ属の雌個体を，奇妙なヤナギがあるとして採集した。引き続いて内藤は同地の河辺林の植生を研究することとし，竹原と共に1983年より植生調査を開始した。調査当初は，前述の奇妙なヤナギを仮にオノエヤナギとしておいた。翌年5月4日に雄株と雌株を同時に発見することができた。このときは開花期の終わりに近く，雄花序が多数，1m程の残雪上に落下していた。これによって雄蕊は2本の花



図 1. ユビソヤナギ，ドロノキ等が混生する河辺林（宮城県小野田町漆沢ダム上流域）.

糸が完全に癒着していること，雌花では腹腺体が線形であることを確認した。これらの事実から，このヤナギはユビソヤナギであると思われたので，さらに木村有香博士に鑑定をお願いし，ユビソヤナギであることを確認していただいた。

引き続き同地域の調査を行った結果，ユビソヤナギは漆沢ダム上流 5 km 附近から上流約 4 km にわたり，ドロノキ，オオバヤナギ，ケヤマハンノキなどと混生して河辺林を形成していることが判明した。この地のユビソヤナギの最大のものは樹高 18 m，胸高直径 60.8 cm であった。

一方，1985年 5 月 4 日，宮城・秋田・山形三県境の軍沢岳（1194 m）に源を発する軍沢川においても，竹原がユビソヤナギが生育することを発見した。軍沢川は荒雄川の支流であり，ユビソヤナギの生育地から約 1 km で荒雄川に合流する。調査の結果，ユビソヤナギは軍沢川から合流点を経て荒雄川沿いの氾濫原に，約 1.5 km にわたって分布していることが判明した。この地域では，ユビソヤナギはオオバヤナギ，シロヤナギとともに高木林を形成している。

今回，ユビソヤナギの自生が発見された宮城県内の 2 地域は，群馬県谷川岳山系から遠く離れている。両地域の中間においても，ドロノキ，オオバヤナギなどが生育するような河川上流域にはユビソヤナギも生育している可能性があると思われる。

なお，証拠標本は次のとおり。

Honshu, Miyagi Pref.: Onoda-machi, Urushizawa, alt. ca. 400 m, 9 May 1983, H. Ohashi, T. Naito & T. Wakasugi 10894 ♀ fl.; Urushizawa, alt. ca. 340 m, 4 May 1984, A. Takehara 2413 ♂ fl., 2414 ♀ fl.; 22 May 1984, A. Takehara 2434 ♀, 2435 ♂ fol. vern.; 8 Jun. 1984, A. Takehara 2497 ♀ fol.; 4 Jul. 1984, A. Takehara 2561 ♀ fol.; 11 Sep. 1984, A. Takehara 2853 ♀ fol. adult.; Narugo-machi, Ikusazawa, alt. ca. 330 m, 4 May 1985, A. Takehara 3229 fr.

これらは東北大学理学部生物学教室（TUS）および同理学部附属植物園（TUSG）の各標本庫に収蔵する。

Salix Hukaoana Kimura, an endemic species in Gunma Prefecture, central Honshu, is newly found at two localities in Miyagi Prefecture, northeast Houshu. Of the two one is located at the upper of the Naruse River in Mt. Funagata and the other at the upper of the Arao River in Onikoube basin. In both areas, this willow is growing in the flood plain.

（東北大学 理学部生物学教室・東北大学 理学部附属植物園）